

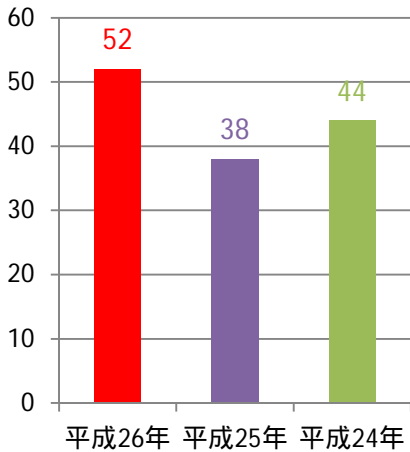


災害発生状況

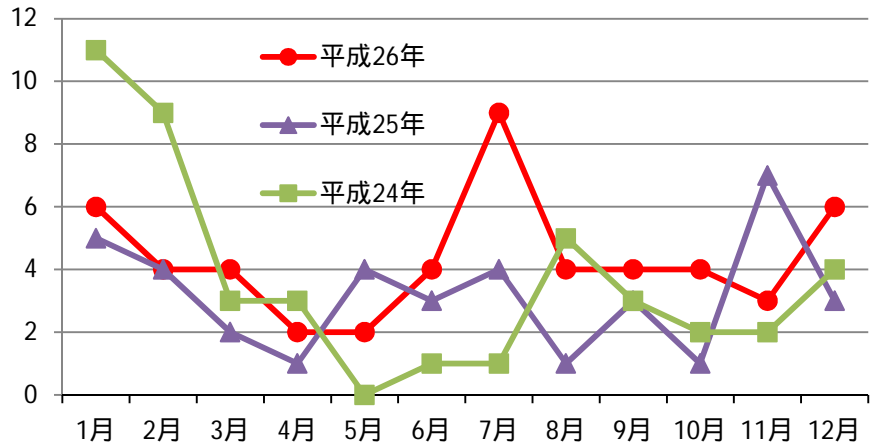
武生労働基準監督署管内

統計は休業4日以上労働者死傷病報告から集計したものです。

1. 発生件数



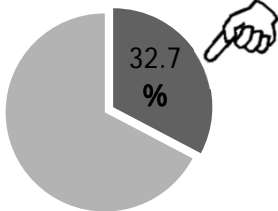
2. 発生月別



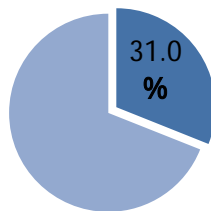
転倒災害は年間を通して発生し得る災害ですが、冬季の積雪が多かった平成24年については1～2月に積雪・凍結が原因による転倒災害が多発しました。

3. 業種別の転倒災害が占める割合(平成26年)

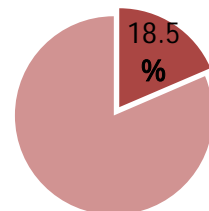
全業種



製造業

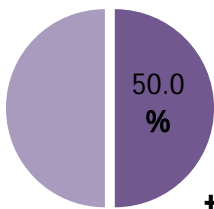


建設業

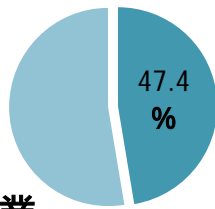


全体の約3分の1を転倒災害が占めています。

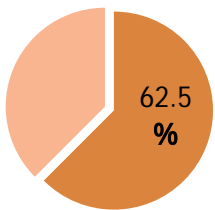
商業



保健衛生業



接客娯楽業

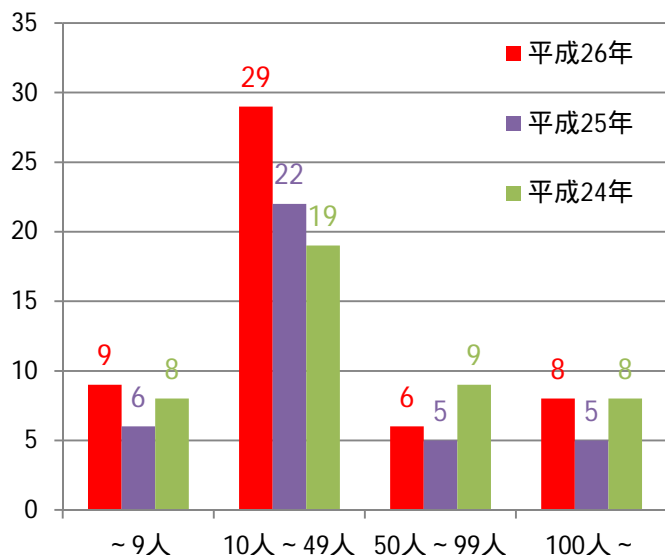


業種	災害件数	転倒の件数	割合(%)
全業種	159	52	32.7
製造業	58	18	31.0
建設業	27	5	18.5
道路貨物運送業	17	1	5.9
林業	2	1	50.0
商業	12	6	50.0
保健衛生業	19	9	47.4
接客娯楽業	8	5	62.5
清掃業	3	1	33.3
その他の業種	13	6	46.2



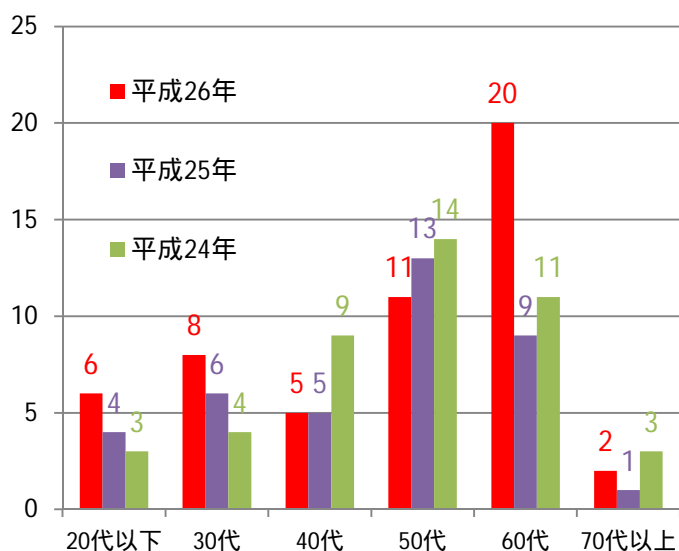
特に第三次産業では、転倒災害が占める割合が非常に大きくなっています。

4. 事業場規模別



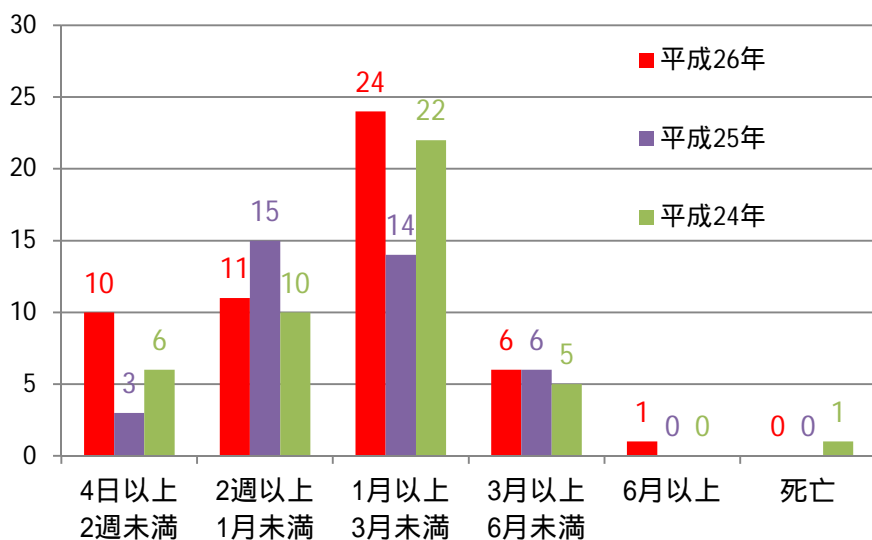
事業場の所属労働者数で発生件数を比較すると、**50人未満の規模の事業場で転倒災害が非常に多く発生していることがわかります。**

5. 年齢別



被災者の年齢別で比較してみると、50代以上の世代の労働者が多く被災しています。しかし、**20代以下、30代の比較的若い世代でも転倒災害は発生しています。**

6. 被災程度別(休業日数別)



本統計は休業4日以上となった転倒災害を対象としていますが、その中でも、**休業日数が1ヶ月以上の重傷となるケースがかなり多くなっています。**本統計に含まれない休業4日未満のものについては、もっと多くの転倒災害が発生しているものと想像されます。

重機やフォークリフト運転中に機械ごと倒れて被災した場合も「転倒」に分類されます。平成24年の死亡災害はその1件となります。

武生労働基準監督署では、各種機会にリーフレット等を配布する、転倒災害の報告があった事業場に対し再発防止対策書を配布して対策を検討させるなどにより、転倒災害防止を呼びかけてきましたが、なかなか減少していないという現状です。

全国でも転倒災害が増加しており、それを受けて厚生労働省は平成27年1月20日から12月31日までの間「STOP！転倒災害プロジェクト2015」を展開することとしました。

「STOP！転倒災害プロジェクト2015」特設サイト

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/tentou1501.html>

特設サイトやリーフレット等を転倒災害防止対策にご活用ください！

リーフレット等については、当署までお問い合わせください。

転倒災害を防止しましょう！